

---

[成果情報名] 促成栽培に適したトマト黄化葉巻病耐病性品種の選定

[要約] トマト黄化葉巻病に耐病性を有する品種「TY桃太郎さくら」、「秀麗」は、収量性および食味について対照品種と同等以上で有望である。また、両品種ともに開花日が対照品種よりも早く促成栽培に適する。

[キーワード] トマト、トマト黄化葉巻病、耐病性、品種、食味

[担当部署] 野菜栽培部・野菜栽培チーム、病害虫部・病害チーム

[連絡先] 092-922-4364

[対象作物] 野菜

[専門項目] 品種選定

[成果分類] 品種選定

---

[背景・ねらい]

本県の促成トマト栽培においては、トマト黄化葉巻病の防除対策が最重要課題であり、農薬による体系防除と耕種的防除に加え、耐病性品種の導入が急がれている。

そこで、促成栽培に適したトマト黄化葉巻病の耐病性を有し、収量、果実品質、食味に優れる大玉有望品種を選定する。

(要望機関名：生産流通課、福岡、久留米普及セ (H18) )

[成果の内容・特徴]

1. トマト黄化葉巻病耐病性品種のうち、「TY桃太郎さくら」、「秀麗」は対照品種に比べて収量性が同等以上で、食味も同等である。一方、「ユニバーサル17」、「TYBET」、「エーゲアン」は対照品種に比べて収量性は高いが、糖度が低く食味が劣る（表1）。
2. 耐病性品種はTYLCVイスラエル株の接種によりいずれも感染するが、罹病性の対照品種に比べて病徴の程度が軽微である（表2）。
3. 「TY桃太郎さくら」、「秀麗」は開花日が対照品種に比べて早い。主茎長は「TY桃太郎さくら」が対照品種に比べて長い。また、各果房直下の茎径は、両品種とも対照品種に比べて細く、草勢はやや弱い（表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 促成トマト栽培における適品種選定およびトマト黄化葉巻病防除対策資料として活用できる。
2. 耐病性品種でもTYLCVに感染し、他ほ場への感染源となる可能性があるため、慣行の薬剤散布およびハウスへの防虫ネット設置は必ず行う。
3. 「TY桃太郎さくら」、「秀麗」はTYLCVイスラエル株マイルド型に対しては耐病性を示さない。

[具体的データ]

表1 トマト黄化葉巻病耐病性品種の収量および品質（平成19年）

品種名	果皮色	上中物収量 (t/10a)	収量比 (%)	上中物率 (%)	糖度 (Brix%)	食味総合 評価	総合評価	
試験 品種	1 TY桃太郎さくら	桃色	8.6	109	90.7	6.1	0.38ns	○
	2 TY桃太郎アーク	桃色	7.2	91	78.8	6.4	0.62ns	×
	3 秀麗	桃色	8.7	111	89.8	6.4	0.27ns	○
	4 ユニバーサル17	赤色	8.5	108	90.1	5.0	-0.77*	×
	5 TYBET	赤色	9.9	126	91.0	5.4	-0.84*	×
	6 エーゲアン	赤色	12.5	159	91.5	5.1	-0.74*	×
対 照 品 種	7 ハウス桃太郎	桃色	7.8	100	87.5	6.2	0.00(基準)	
	8 桃太郎はるか	桃色	8.8	112	86.2	5.9	0.31ns	
	9 麗容	桃色	7.8	99	89.0	6.1	0.42ns	
	10 感激73	桃色	7.2	92	84.2	6.8	0.27ns	

- 注) 1. 「上中物収量」は第8段果房までの収量。「収量比」、「食味総合評価」は「ハウス桃太郎」を基準とした。  
 2. 定植日：平成19年10月26日、台木：「がんばん根」、栽植密度：2,116株/10a、OKF-1、2000倍養液による養液土耕栽培、暖房温度10℃。  
 3. 食味総合評価は平成20年3月21日に15名のパネラー（トマト生販会議メンバー）で、基準品種に対して2：優れる、1：やや優れる、0：同等、-1：やや劣る、-2：劣るの5段階で評価した。\*は基準品種に対して5%水準で有意差あり。nsは有意差なし（Dunnett法）。  
 4. 総合評価は、○：有望、△：やや有望、×：有望ではない。

表2 トマト黄化葉巻病耐病性品種の生育および耐病性（平成19年）

品種名	主茎長 (cm)	開花日		果房下茎径(mm)		TYLCV検定		
		4段	8段	4段	8段	PCR	病徴	
試験 品種	1 TY桃太郎さくら	289	12月 1日	1月25日	14.8	10.6	+	0.4
	2 TY桃太郎アーク	264	12月 3日	1月24日	14.6	11.7	+	1.2
	3 秀麗	260	12月 2日	1月23日	15.5	11.5	+	0.4
	4 ユニバーサル17	250	12月 6日	1月31日	14.8	11.3	+	0.3
	5 TYBET	268	11月30日	1月23日	13.6	10.3	+	0.3
	6 エーゲアン	289	12月10日	2月 6日	14.1	10.3	+	0.0
対 照 品 種	7 ハウス桃太郎	264	12月 6日	2月 4日	16.3	11.5	+	3.0
	8 桃太郎はるか	261	12月 2日	1月27日	15.2	12.2	未検定	未検定
	9 麗容	268	12月 5日	2月 2日	17.3	13.1	未検定	未検定
	10 感激73	242	12月 5日	1月30日	16.7	13.9	未検定	未検定

- 注) 1. TYLCV耐病性検定は、6葉期の苗に保毒コナジラミを1週間接種し、その後苗を人工気象室で1ヶ月間維持した。  
 2. PCR項目での+は陽性、-は陰性。  
 3. 病徴は、各品種5株を、0：症状なし、1：軽い黄化、2：軽い葉巻、3：激しい黄化・葉巻の4段階評価。

[その他]

研究課題名：促成トマト有望品種の選定

予算区分：経常

研究期間：平成19年度（平成17～19年）

研究担当者：井手 治、龍 勝利、小熊光輝、奥 幸一郎、石井貴明